

女と男、もっとわかりあうために

# かれんと

No.17

2000.9.25

Current:カレント

時代の流れあるいは  
新しい潮流

気づいた時

## わたしが変わる あなたが変わる

女性も男性も互いに人権を尊重しつつ、平等な社会の実現を目指す「男女共同参画社会基本法」が、昨年6月に制定されました。

しかし、現実には、この男女共同参画社会の実現をさまざまに妨げるものがいくつもあります。

その一つは、長年かかって身につけてしまった「男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分業意識が、個人・家庭・職場・地域社会・マスコミなどの中に存在していることです。

男性も女性も意識してジェンダーに敏感な視点を持ちながら、気づいたら変えていくことが、大切なのではないのでしょうか。

気づいた時、わたしが変わる。あなたが変わる。その時、女性も社会進出しやすくなり、男性も少し肩の力を抜いて、生きられるのではないのでしょうか。

「気づきさがし」のため、かれんと編集員も「男女共同参画セミナー」に参加しました。女性問題研究家・西山恵美子さんの講話の内容を紹介します。一緒に考えてみませんか。

平成12年度

### 男女共同参画セミナー

ひとりひとり誰もが自分らしく生きる  
-男性と女性が共につくる家庭、  
共につくるまち-

講師 西山恵美子さん

#### 第1回 6月23日(金)

ジェンダーフリーってなに?  
-思い込みから自由になろう-

#### 第2回 6月29日(木)

家族とわたしのパートナーシップ  
-夫婦・親子の関係は-

#### 第3回 7月7日(金)

「女性2000年会議」に参加して  
-世界各国の女性から学ぼう-

主催:市教育委員会  
会場:市民情報センター



「男女共同参画セミナー」  
受講のひとつま

# 第1回 ジェンダーフリーってなに？ —思い込みから自由になろう—



講師 西山恵美子さん

す。もともと違つのは生む性か、生まない性かということだけ。

「男女は、もともと違つんだ」と考える人が多いと、様々な問題が出てきます。

ジェンダーが生み出している問題点と現状を考えてみましょう。  
人は生まれるとき、「女」あるいは「男」として生まれます。それは、妊娠する可能性のある性か、可能性のない性か、といった生物学的な性別です。

それに対して社会的・文化的につくられた性別をジェンダーといいます。  
私たちは、一人ひとり異なる性格、能力を持っています。ところが、こうした個人の多様性を考えず、とにかく男性が主で女性が従という見方や、男女を必要以上に区別することが自然に行われています。

## 女はおとなしくしゃべらない

根強くあるのは、男と女はもともと違つんだという考え方で

が分かれていて、女の子には、こんなことが適している、という刷り込みが働いていきます。職業の場では、断然男性が有利です。

## 男性にもジェンダー問題

男性は、社会的には女性より優位と考えられています。

しかし、男性にもジェンダーの問題は起きています。

男の人は、頑張り、偉いぞと言われて生きてきました。ところが、1998年の自殺者が3万3千人(男2万3千人、女1万人)。交通事故死の3倍です。男性の平均寿命がわずかに下がりました。40〜60代の男性の自殺が史上最高だったのです。

職種・業種に関係なく、失業率と自殺の増加が、連動しています。多いのが過重労働による過労死。長時間働き過ぎて、判断力がなくなってしまうのです。倒産やリストラ、辞めていかな

い人に対する職場のいじめもあるでしょう。

男は苦しくて弱音をはいてはいけない、



生計を立てて、妻子を養って当たり前という圧力。  
家の中にも父親の居場所がなく、子供ともコミュニケーションがとれない。

多くの男性は、働いて経済的責任を果たすことのみ追いかけ、会社、仕事を取ったら、どこにも居場所がないのです。

## 人間として生きることの大切さ

働くことも大切ですが、休むことも、遊ぶことも、子供と触れ合うことも、おむつを替えることも大切なことです。

いろんな人と付き合い、周囲に助けを求めることができれば、すぐにポキッと折れてしまうこともないはず。

経済は妻と一緒に分かち合えばよい、家庭や地域で家族と一緒にやることがあるさ、というふうと考えられない精神構造は、ジェンダーそのものです。

「男は仕事、女は家庭」という固定的な考え方を変えていきましょう。

持っている個性を生き生きと生かして、トータルに人間らしく生きることが大切なんです。

決して「中性の勧め」ではありません。女が男を超えて、男を踏み付けにするということではありません。

「ジェンダーフリー」とは、女、男と必要以上に決め付けず、それぞれが持っている可能性を制限や制約をしないで、伸ばしていきたいと思います。

もっと様々な生き方があるよ、制約しないでやっていこうよということなのです。

「ジェンダー」を生み出している現状を考えてほしい。「ジェンダー」が巻き起こす問題点を敏感な視点で見たいと思います。

## 参加者のアンケートから

・長年社会的、文化的に作られた性別役割分業の意識を変えるのは難しいが、教育の中で子供の中から意識づけることが必要ではないか。(40代女性)

・私の家ではまだまだ古い考えで、男性中心。女性は小間使いのような感じ。男性も研修会に参加させていくようにしたいと思います。(60代女性)

・今まで女性の側からの差別しか考えていなかったが、今日のお話で、男性も縛られていることが分かった。(30代女性)

・今までの固定的な考えは、見直さなければならぬと思った。その人に備わった大切な個性を良い方向へ伸ばしてほしいと思う。(60代男性)

## 第2回 「家族とわたしのパートナーシップ」

### 夫婦・親子の関係は

前回お話しした「シエンダー」

・性別役割分業観を踏まえて、今回は、家族の生活時間・家事・夫婦のパートナーシップについて考えてみましょう。

国際的に見ると、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観を肯定する人の割合は、フィリピンや韓国では高く、日本やドイツ(画)では、男女や世代によって意識差があります。

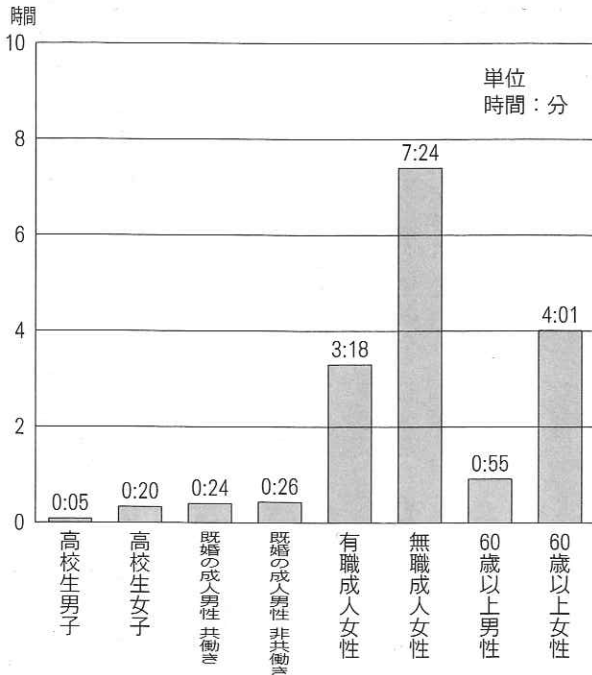
日本では「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する割合が高齢者は高く、若者は低くなっています。その中間に中年の人たちがはさまれています。親世代と子供世代の違った考え方が同居している状況になっているのです。

### 家族の生活時間

生活時間は、生理的生活時間(睡眠・食事・身のまわり)と労働生活時間(通勤・通学・仕事・学業・家事に関わる時間)と社会的・文化的時間(自由な時間)の3つに分けて考えることができます。

下の表をご覧ください。

平日生活時間実態：家事時間の平均



(NHK国民生活調査、1995年より)

「家事時間」は、年齢・性別・有職・無職で大きな違いがあることに気づきます。

成人の男性の家事時間は、一日平均20数分で、諸外国と比較しても、際だって少ないのです。

高校の家庭科実習の授業が信じられない状況だと聞きました。例えば、肉じゃがを作る時に、肉を水洗いしてしまったり、煮物がお鍋からふきこぼれそうになった時、ただ驚いて、キャリア騒いでいるだけ。家の中

での手伝いが非常に少なくなっているの、とっさの時、どうしてよいかわからなくなってきたのだと思います。言われたとおりのことはできるけれど、応用力がなく、特に、家事にほとんど関わっていない男子生徒はでき上がったものしかわからない有様です。

### 誰にも大切な生活技術

仕事を持っている女性は、睡眠時間を削ったり、自由時間を削ったりして、仕事と家事をこ

なしています。仕事と家事の両方の負担が女性に重くかかっています。

結婚によって、男性の生活の変化はあまりありませんが、女性の生活は激変します。それが女性の晩婚化の一因ともなっています。

また、男女ともに「まとまった自由時間があり、好きな時に使える」という人は、少ないのです。

60歳以上になってたっぷり使える時間が手に入りますが、やはり、家事に関わる時間については変わりません。

一日の生活時間は24時間と誰にでも平等なはずなのに、大きな違いがあります。家事労働は、生活していく上で、不可欠な労働であるはずなのに、適性がある女性がいればよい、向いている人がやればよいという考えがまかり通っています。自分の身の回りのことをするのは当たり前のことなのに、その当たり前のことがなされていないのです。

「生き抜く力」「物がなくなつた時の工夫する力」が衰えてしまっています。

家事は適性と決めつけてはいけません。誰もが生きていくための生活技術を身につけなくてはならないのです。

週休二日制の広がりや、ゆとり時間を生み出しているはずなのに、かえって平日の労働時間が増えている、家事に関わる時間を奪ってしまっているのです。

### 夫婦のパートナーシップ

「パートナーシップ」とは、上下の関係ではなく、平等な関係で、よき相談相手であり、協力し合う関係をいいます。

夫婦の形は、年代も職業も意識も様々です。それぞれの夫婦が互いに押さえ付けられない関係であることが大切です。そのため「問題があるのだ」と気づくこと、「変えていくのだ」とはつきり意識することが大切です。

### 参加者のアンケートから

・先生のお話を聞いて、今まで自分流に夫に接してきたことが先生の考えに近いことにほっとしています。これからも根気よく夫にアプローチしていきたいと思いました。(40代女性)

・高校生の家事能力があまりないと聞いて、自分の子供には「女の子だから、家事ができて当たり前」ではなく、「家事は生きるために必要なこと」として教えていきたい。(30代女性)

## 第3回 「女性2000年会議」に参加して —世界各国の女性から学ぼう—

6月5日から10日まで、ニューヨークで国連特別総会「女性2000年会議」が開かれまし

た。私もNGO（非政府組織）として参加し、アナン事務総長の演説も身近なところで聞くことができました。彼の「決して後戻りしてはいけない」という熱っぽい言葉が印象的でした。ワークショップがあちこちで開かれ、私はそのいくつかに参加しました。

「世界女性会議」のこれまでの流れをお話しします。国連は、1975年を「国際女性年」と定め、女性の地位向上のための取り組みを始めまし

た。北京世界女性会議では、次の「行動綱領」を取り組むべき重要課題として採択しました。



NGOの小さな集いで演説するアナン事務総長

(写真提供…西山恵美子さん)

- ・暴力・武力紛争・経済
- ・権力および意思決定・制度的な仕組み・人権・メディア
- ・環境・女兒の12領域です。

この「綱領」が、この5年間でどこまで解決できたか、どんな課題が残っているかが話し合われ、話し合いは難航しましたが、「成果文書」が採択されました。

いくつかの領域についてお話しします。

### 暴力

女性に対するあらゆる暴力の根絶が、重要な課題です。各国は女性に対する暴力の廃止、家庭内暴力（夫や親しい男性からの暴力）廃止の法律制定あるいは強化に同意しました。

### 経済

賃金格差、失業などの要素が、男女間の格差を広げています。また、経済のグローバル化が進み、貧しい女性が一層取り残されています。

日本女性にとっても、非常に関わりの深いところです。家事・育児など、家の中で行われる労働で、お金に換算できない労働（アンペイドワーク）のほとんどを女性がして、男性の多くは報酬のある労働（ペイドワーク）

をしています。

カナダでは、国勢調査に、家事・育児・介護をしている時間を何時間と書き込む欄をつくり、評価するようにしています。

途上国の女性は、ただ働いて、生命維持活動をしています。薪を運んで、水を汲み、ご飯をたたくという生命を保つための重要な活動であるにもかかわらず、報酬がありません。農業における女性の働きも同じです。

女性が経済と教育の機会を得ることが重要だと訴えています。

女性の起業の支援についても、多く話し合われました。

### 権力および意思決定

日本では、政策決定の場や公職への女性の参画が、極めて低い現状です。こうした現状を変えていくために、短期的長期的にはっきりとした数値目標を掲げ、女性の政治参画を進めていかななくてはなりません。つまり、「いつまでに」「どんな割合で」女性が政策決定などに関わっていくかを具体的に設定することが大切なのです。

1999年に成立した男女共同参画社会基本法では、政策決定・方針決定の場に男女が平等に参画することを理念の一つに掲げています。

## 「ひとこと」募集

あなたの「ひとこと」を募集します。家庭や職場、社会における望ましい女性と男性のあり方に関する意見や体験をお寄せください。

入賞者は、「かれんと」18号に発表いたします。

規定 200字以内。（fax、ハガキでの応募可）

字数外で題名、住所氏名、電話番号を。

応募資格 市内在住者

締切日 10月末日

応募先 〒322-8601 鹿沼市今宮町1688-1 市教育委員会

女性青少年課女性係

☎(63)2232

※応募原稿は、審査委員会で審査し、入賞者には賞品を贈ります。

## 編集後記

2000年の節目の夏。猛暑雷雨と自然の大きさを痛感した日々。女と男が、人間として本当に生活しやすい毎日を送れるよう「気づく」大切さを知ることができました。今はもう秋。実りの季節。